

## イスラエルの本格的地上侵攻に対するハマスの対抗戦略

Pakestine Chronicle, 2025年3月23日、脇浜義明訳 \*脚注は訳注

アル・ジャジーラのアラビア語版からの英訳文の翻訳。アルジャジーラ・アラビア語から翻訳したこの分析では、イスラエルがガザ地区での軍事作戦を拡大し続けた場合、ガザの抵抗勢力がとりうる戦術を概説している。



ガザ南部のラファで活動するアル・カッサム旅団の戦士(Photo: video grab)

イスラエル・カッツ国防大臣は、パレスチナ・レジスタンス運動ハマスが人質を全員解放しなければ「ガザを全面破壊する」という最後通告をビデオメッセージで出し、ガザ攻撃がエスカレートした。カッツの通告は3月18日にイスラエルが停戦協定を破って突然空爆を開始し、さらにガザ北部と南部に地上侵攻を再開したのと同時に発せられた<sup>1</sup>。この突然の就寝中の空爆で、ガザの民衆はもちろん、ハマスの政治的指導者を含む数100人が死亡した<sup>2</sup>。イスラエルが地上侵攻を本格化するとき、レジスタンス・グループはどう対処するのであるうか。

### 待ち伏せ戦略

レジスタンスの情報筋がアル・ジャジーラ・ネットに語ったところによれば、2023年10月7日以降の500日間以上の戦争経験から学習した教訓とゲリラ戦のテクニックに基づいて、レジスタンスはイスラエル軍との戦いの戦術を練り直したという。敵が攻撃標的とする場所に侵攻してくるとき、それを正面から戦闘していたら、その圧倒的物量には敵わないから、それに目をつむり、部隊でなく個々の兵士を狙うのが効果的と判断した。イスラエル軍は集中的空爆で家屋や施設を破壊し、火事を引き起こしてから、地上侵攻する。この地上侵攻に正面から対応する、つまり「従来の伝統的戦争」の方法で対応するのではなく、個々の兵士を標的に思いがけない角度から攻撃するのだ、と情報筋が語った。高度な待ち伏せ戦略や背後からの奇襲攻撃を使う。このやり方は前にベイト・ハヌーンやガザ回廊北部で使い、侵攻軍に多大な損害を負わせたことがある。イスラエルは大規模に破壊し、レジスタンスを殲滅したと思い込んでいたが、軍の兵士は恐怖で怯えた。

<sup>1</sup> 停戦中もイスラエル軍の小規模な破壊と殺害は続いていた。

<sup>2</sup> ハマスのアハメッド・アブデル・ラーマンは「停戦で民衆も戦士も油断していた」とイスラエル襲撃の成功を分析している。

## エヤル・ザミール新参謀総長の復帰

レジスタンスは、かつてイスラエル軍の参謀副総長や師団司令官だったエヤル・ザミールが新参謀総長になったので、これまでの経験から予測される彼の戦術を警戒している。ザミールが大規模部隊をガザに投入すれば、レジスタンスは戦士を少人数グループに編成し、移動性と護身性を高めて、ゲリラ攻撃をする。また、思いがけないところに爆薬を仕掛けた待ち伏せ戦術を使う。この戦術はこれまでも成功し、かなりの数のイスラエル兵と将校を殺傷した。

これは、イスラエルが空爆と砲撃で使用した砲弾の不発弾を集め、その爆薬を取り出して作ったブービートラップで、侵攻部隊と正面から戦闘するのを避け、策略で敵を殺傷する戦術である。タイミングよく運べば確実に敵に打撃を与える。

## 過去の交戦の分析

レジスタンス・グループはこれまでのイスラエル正規軍や予備役部隊との交戦を振り返って分析したと、情報筋が語った。イスラエル兵の士気や市街戦やトンネル内<sup>3</sup>戦闘の経験不足など、その弱点を研究した。

研究を通じてレジスタンスは、イスラエル兵の士気がかなり弱っていると判断した。戦争の長期化、レジスタンス戦士や民衆を大量に殺害し、施設なども大量破壊したのに、そういう軍事的圧力で人質奪還という戦争目的が達成できず、レジスタンスがいつまでも続いているために、イスラエル兵の士気が消耗した。対照的に、パレスチナ・レジスタンス戦士の闘争心はますます強くなり、経験も豊富になった。

さらに、ネタニヤフ政府の一方的な決定で、政治的解決はますます遠のき、終わりのない戦争となり、軍はこれ以上兵士の生命を危険に晒すのを嫌がっている。

## イスラエル兵の捕虜

これまでの戦争で、イスラエル部隊と直接交戦したときには、レジスタンス各派は自家製武器やイスラエル軍から奪った武器を使った。敵から奪った武器や不発弾を材料に製作した自家製短距離ミサイルで、敵の兵站基地や陣地を攻撃した。レジスタンス戦士は経験から学んで、敵に検知されない形で行動し、柔軟性を維持したので、イスラエル軍はそれへの対応でかなり消耗し、そのサイクルが再び繰り返されることを恐れている。

レジスタンスは、機会があればイスラエル兵を単に殺傷するだけでなく、生きてままであろうと死体であろうと、捕虜にし、軍事的・政治的交渉のテコに利用した。この戦術にイスラエルはかなり困った。攻撃すれば自国民を殺害または遺体を破壊することになるので、躊躇したのだ。典型的な例は、2024年5月にイスラエル軍がジャバリア難民キャンプを攻撃したとき、アル・カッサム旅団がキャンプ内のトンネル内で戦士がイスラエル兵の死体引きずって移動しているビデオを流したことだ<sup>4</sup>。

イスラエルのヘブライ語ウェブサイトの「ハダショット・ブズマン」は「メディアでハマスを解体させたと主張している人たちは幻想の中で生活している。最近ハマスはロケットを製作し、もっと悪いことに、我々の不発弾を利用して爆薬を作っている」と報告した。このウェブサイトはさらに「ハマスは攻撃能力を回復しており、今のところイスラエルの攻撃再開への反撃をエスカレートしていないが、イスラエルのガザ地上侵攻に備えているのは確実だ」と書いた。

同じようなことを表明するイスラエル高官や軍事アナリストが多くいる。

---

<sup>3</sup> 完全封鎖されたガザにとって、トンネルが唯一の外界と接点であり、護身地帯である。人質もトンネル内でイスラエルの攻撃から守られている。イスラエルはトンネル潰しに懸命だが、その数を完全に把握していない。

<sup>4</sup> ネタニヤフ政府が捕虜や人質の犠牲をいとわないことが、軍と政府の対立点の一つである。